

地質と調査：小特集 地盤・地質情報の三次元化

2014年第1号（通巻139号）の「地質と調査」は、表記の特集を組んでいます。全地連HP>全地連e-Learningセンター>全地連機関紙「地質と調査」で全文を見ることができます。

本号の巻頭言は、土木研究所の脇坂安彦氏の「なぜ今、三次元か?」である。

次に、全地連の秋山泰久氏の「CIMへの取り組み」である。

CIM技術検討会の平成24年度報告では、測量・地質調査に関しては、「測量データのデータ構造の在り方」、「地形・地質データのデジタル化」を平成26年度中に終え、平成27年度と28年度にデジタルデータの精密化を行う行程になっている。さらに、平成25年度から「特定地域に地盤モデルの標準化の方法の検討」を行う。

秋山論文では、CIMの問題点、地質の観点からにCIM、全地連としての取り組みが述べられている。

これは、地質調査業にとって、かなり重い課題であると感じる。地質情報の三次元化を行うだけでなく、CIMを睨んだ情報の整備、機器・ソフトの整備を進めていく必要がある。

続いて、地すべり、地下空洞、地盤情報についての三次元化の事例紹介である。

最後は、国内外の地質モデリングシステムの紹介である。

地質調査の対象である自然が三次元である以上、地質モデルも三次元表示とすることで効率化が図られることは間違いない。地質調査業を取り巻く環境が、多少良い状態になりつつある今、今後を見すえた人、ソフト、機材の整備をしておく必要がある。